

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526



1月17日 細井さおりさんの遺影を胸に
JAL本社前アピール行動に参加する争議団

新年あけましておめでとうござ
います。ついに12年目に突入で
す。今年こそ、納得のいく解決を
と願っています。
新年早々、皆様に悲しいご報告
をせねばなりません。ずっと一緒
にがんばってきた仲間が昨年末急
逝しました。彼女は、東京東部地
区の要として大変頑張っていました。
た。いつも明るく元気で洒落で
グルメで笑顔のチャームキングな女
性でした。未だに信じられません。
さぞかし無念であつたらうと思ひ
ます。彼女の分まで皆で頑張り、
早く良い報告を墓前に届けたいと
思います。

みんなで、幸せになりましょう

ビバ労働組合！！！！

先日、外国人技能実習生につい
ての学習会がありました。実習生
とは名ばかりで、労働力不足を解
消するための仕事をさせられ、な
にやかやと搾取され、ひどい扱い
を受けている人たちがたくさんい
ることは皆さんもご存知のとおり
です。
ブータンから隣町へ来日した若
者たちが実態を話してくれまし
た。ブータンの大学で環境科学を
学んでいた彼らは全く畑違いの弁
当屋さんで劣悪な環境の中、低賃
金・重労働を強いられ、強制送還
されるようになりました。
(裏面に続く)

不当なことには、声を上げなければならない

愛媛県議会議員 武井多佳子

私も



します

応援

四国から女性を国会に送り出そ
うと、2021年秋の衆議院選挙で林
恵美さんと一緒に勝手連を立ち上
げて行動しました。悔しい結果で
したが、楽しい選挙でもありまし
た。私は、1994年から愛媛県内の
女性議員を増やそうと活動してき
ました。自身も2002年から松山市
議会議員、2017年から県議会議員
を務めさせていただいています。
一貫して取り組んでいることが
ジェンダー平等です。しかし、こ
の間、ジェンダー・バッシングに
晒され、長らく男女平等政策は停
滞していました。行政は委縮し、
議会に女性の意見はなかなか届か
なかったその付けが、ジェンダー

ギャップ指数2021世界156カ国中
120位、先進国最下位という酷い結
果になったと思います。
さて、コロナ禍で女性の貧困は
深刻な実態です。渋谷で殺害され
たホームレス大林三佐子さんのこ
とを決して忘れたくありません。
「彼女は私だ」という追悼デモが
行われ、私も思いは一緒でした。
多くの女性たちは使い捨てのよう
な労働に置かれています。今、生
きられる賃金を補償しろ！と声を
上げなければならない時です。と
ころが、女性たちの多くは不安定
な労働で細かく分断され、要求す
る手立てを持ちません。当事者と
して声を上げることこそ解決の大

きな力になる、その手段を示して
きたのが労働組合だと思います。
残念ながら、働く権利を求める
労働組合の行動がなかなか見えな
い今、社会に及ぼす影響は計り知
れないと私は常々思ってきました。
企業に社会的責任があるように
労働組合にも社会的使命がある
のではないのでしょうか。
JAL闘争は、不当なことを強
いられたら、声を上げなければな
らないんだということを社会に発
信してくれている貴重な闘いで
す。10年以上にわたり、粘り強く
闘ってこられた争議団に心より
敬意を表すと共に、一日も早い解
決を願い、私も応援します。

JAL不当解雇撤回争議団
西予市在住 大池ひとみ

お年寄りや障がいを持つている人たちが自立できる農業をする会社にお世話になって、現在は、お豆腐屋さんで働いているそうです。大豆を自家栽培した、手作り豆腐は大変人気があります。帰国したら、ブータンで豆腐を作って販売したいと意気込みを語ってくれました。



劣悪な労働実態を告発する
ブータン技能実習生のロビンさんとカーラさん

1994年、JALは契約制客室乗務員を採用する計画を発表しました。1980年代から出してはひっこめを繰り返していた「アルバイトスタッフ」の猛反対に遭い、実行できなかったこの問題を、さまざまな脱退工作により、御用組合の組織数がCCUを上回ったのを見て一気に強行しようとしたのです。御用組合は「正社員の賃金を守るために、安い給料で働いてもらうスタッフ」を確保することは必要だ」と会社の提案を支持しました。

CCUは「正社員と契約制客室乗務員が同乗することで、緊急時の乗務員間のチームワークに齟齬をきたし、乗客の安全確保に問題が生じかねない」と反対しました。数的に不利だったCCUに助け船を出したのが当時の運輸大臣亀井静香氏です。彼は「同一労働同一賃金」を謳い、「安全上問題がある」とJALの計画に待ったをかけたのです。「鶴のひとこえ」ならぬ「亀のひとこえ」でした。そのおかげで会社の思う通りの「1年ごとの契約」「3年で更新終了」という目論見は達成できませんでした。しかし、「契約制」「契約制から3年経って正社員」「元から正社員」という3種類の賃金体系ができてしまいました。

「契約社員が当たり前」の時代へ突き進むとする攻撃に、労働組合が果敢に闘った経験でした。



「支える会」佐藤壽兼さんと争議団

この争議

一日も早く解決したい

私にとって、労働組合はとても身近で人生の一部といっても過言ではありません。労働組合に加入し差別も受けましたが、組合に加入していたからこそまで頑張ってきたのも事実です。

私たちの解雇闘争は私たちだけの問題ではなく、私たちが声を上げ続けて職場に返ることが日本中の労働者を励まし、労働環境の改善に繋がると信じて活動してきました。

「みんなで幸せになりましょう」が、私と争議団の思いです。

この争議、一日も早く解決したい。更なるご支援をどうぞよろしくお願いします。

ブータンの若者たちは心ある企業に救われ、そして労働組合に加入したことも報告されました。外国人でも労働組合に入ることができるとは知らなかったし、労働組合に入る発想が彼らに湧いてきたことに驚きました。

徳島では、中国からの女性技能実習生たちが行政に訴え、翌朝、検査が入るといふ夜中にたたき起こされ、無理やりバスで関西空港まで連れていかれ、強制帰国させられそうになったことがあったそうです。そのときに逃げ込んだのはやはり労働組合だったそうです。ビバ、労働組合!!!

「契約制」跳ね返した

労働組合の経験

彼らの話を聞いていて、JALでも同じようなことがあったことを思い出しました。



1.17 JAL本社前アピール行動参加の
大池ひとみさん



1.7 新春合同旗開き
全労連 稲葉美奈子さんと争議団